

第12回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和5年6月16日（金）

開議 13時 29分

閉議 14時 01分

第4委員会室

- 【委員】 西田委員長、上野副委員長
村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員
- 【議長・委員外議員】
- 【事務局】 松井次長、小寺書記
-

議 題

- 1 協働のまちづくり推進特別委員会における中間報告について
- 2 勉強会の実施について
- 3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 29 分 開議]

○西田委員長

ただいまから第12回協働のまちづくり推進特別委員会を始めたい。今日は二つの大きな議題で進めたいと思っている。

1 協働のまちづくり推進特別委員会における中間報告について

○西田委員長

今6月定例会議の最終日にさせていただこうと思っている中間報告について、皆のタブレットに配信している。中身について時系列で詳しく流している。目を通してもらったかと思うが、文言などご意見を伺いたい。

○小寺書記

事務局で大枠を作り、正副委員長に確認していただき、こういった意見があったということを入れていただいた。赤字部分は表現が少し気になった点である。4ページの赤字部分は今日の委員会のことを載せる予定である。

12回分の委員会の報告になるのでボリュームは大きめになってしまうが、最終日に西田委員長から報告していただく。内容をご確認いただき、気になる文言等あれば委員会内で確認し、直していけたらと思っている。

○西田委員長

文言も丁寧に書かれているが、特に視察や意見交換をした際の主立った感想を、副委員長を中心に書いてもらっている。皆は特に下線部や赤字部分について、意見があれば調整をお願いしたいし、全体を通じても意見を伺いたい。

もう少しコンパクトになればと思うが、これまでの経緯を報告しようとするとう仕方がないとも思う。

○岡本委員

非常によく整理されている。むしろ最初のほうに書いてある項目は最終的には提言になるものであって、ここを出して良いのかと正直思った。もっと、こういう大義の下でやってきたといったものがあるなら理解できるが。

○小寺書記

提言と中間報告のすみ分けだと思うが、これはあくまで取り組んできたことの報告なので、特に市に対して「こういうことを進めたほうが良いのではないか」といったことまでは、踏み込んでない内容になっている。今後、西田委員長が言われていた提言については、出た意見を委員会内でこういう形で市に言えば良いのではないかと、いうところをしっかりとまとめた上で提言していくことになるかと思う。岡本委員が言われた部分や、ほかの柱も項目立てて、提言するようなイメージかと思っている。

○岡本委員

中間で出ても良いので取りあえず出しておいて、最後にまとめようという考え方が

あるということで理解した。

○西田委員長

提言になると文言ももう少し強く表現できれば、そういう表現も入れないといけないと思う。オンラインで勉強会をするので、その辺で何らかのプラス要素が入れば、オンライン研修も含めてまた何か新たな発想で提言に結びつけることができたなら、またそれを取り入れたい。現状の段階ではこれがベストかと思っている。イコール提言に近いものはある。

○柳楽委員

3ページの下から11行目、「当委員会の考えと市の考えのすり合わせを行うため」とあるが、すり合わせという言葉が少し気になった。「共有」などのほうがもしかしたら良いのではとも思ったのだが。

○西田委員長

「委員会と市との考え方の共有も含め、担当課との意見交換を行う」でも。いかがか。

○柳楽委員

すり合わせのほうがふさわしいのであれば、それは別に良いと思うのだが、私自身は少し違和感があったので。

○小寺書記

「市の考えを共有するため」か。

○川神委員

共有も少し違うのではないか。共有となるとお互いが共通認識を持つことなので。そうではなく、すり合わせというのはいろいろある中で相手との隙間を埋めていって、最終的には一つの方向性を得ること。例えば、今当委員会が考えている方向性、それがどのように向いているのかを確認するための意見交換をするという意味合いなのだろう。

○西田委員長

柳楽委員、それで良いか。

○柳楽委員

良いと思う。

○小寺書記

「当委員会の考えと市の考えの方向性を確認するため」。

○西田委員長

そう。ほかに何かあるか。

○芦谷委員

大変良くできている。できれば中間報告を最終報告への橋渡しとする意味で、最後に、入口か切り口の指摘をしたほうが良い。それが四つある。「地域での住民参加が弱い、理解が薄い」というところがある。二つ目は「地域間のばらつき、仕組みが違う」。三つ目に「まちづくりセンターやコーディネーターの役割や機能が曖昧」。四

つ目に「市の姿勢が皆違って皆良い」なのである。それではいけないと思うので、しっかり市として協働のまちづくりを進めるなら、こうだというのがほしい。そういったことを最終目標にして、ここで「大変だった」と書かれている後については、例えば「住民への理解啓発が必要である」とか「抜本的な」とか、あるいは「まちづくりセンターについては体制も含めて機能強化が必要である」といったことがあったほうが次へつながると思った。これはこのままで良いが、なお十分言えば、次への橋渡しがあればと思ったので、余計なことを言った。

○西田委員長

いろいろこうだったが、その先にこうだと。次につながる意味での文言。ほかにあるか。全体のボリューム的にはこれくらいで良いか。

(「良いと思う」という声あり)

個人的にはコンパクトにと思っていたのだが、丁寧に、ほかの特別委員会とはまた違った意味で、一つ一つの活動の積み重ねなので、どうしてもこのくらいにはなっていくのだと思う。中間報告については、先ほどから言われた文言については一部修正するが、ほぼこの状態で報告させていただこうと思うが、よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では7月3日には一部修正した部分で報告させていただく。議題1は以上とする。

2 勉強会の実施について

○西田委員長

協働のまちづくり推進に係る勉強会ということで、7月7日を予定している。事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○西田委員長

この日程だと芦谷委員が。

○芦谷委員

Z o o mだったら参加できるかと思う。

○西田委員長

では3時ということで。もしかしたら多少時間が繰り上がる可能性もあるので、その辺は含んでおいてほしい。

滋賀大学経済学部の横山教授は、村木委員がいろいろ世話をされたということで村木委員から詳しくお願いします。

○村木委員

もともと「自治体経営論」という本を書かれている先生で、経済学の面から切り込んでこられる。公民連携、補助金、使用料、手数料といった、どちらかと言えば行革的なところもあるが、その中でも行政が関わっている地域の方々の協力、さらに言うと協働の中の一部には行政がやるべきこと、地域がやるべきこと、中間支援組織がや

るべきこと、それがそれぞれのことをやって一つのまちを担っている。全部地域に丸投げするのはもちろん反対されている。地域が疲弊している、少子高齢化の中、行政はどういったところを担うべきかといった話も恐らくされるのではないかと思っている。

時々私が使うのだが「地縁と志縁」。地域のコミュニティと目的を持ったコミュニティの関わり方も先生は見ている。一部、行政でも考えている、まちづくりセンターを5年間評価の中で、それをどのように運営していくか。委託や指定管理や直営など、恐らくこれから議論されると思うが、そこにも切り込んでいる。ある県では指定管理を地域自治組織に委ねたが、結構しんどいと言っているといった話も書いてあるし、恐らく出てくると思っている。テーマも地域の改革、地域の思い、地域の関わり方、行政の関わり方、そして中間支援組織の関わり方。この本の中にも地域協議会、まちづくり協議会、町内会も単語として入っている。それぞれ整理しながら、先生なりの論を論じる内容となっている。ぜひ聞いていただければ。

○西田委員長

演題は「地域の改革と中間支援（コミュニティ支援・協働支援）」とあるが、テーマはそういう感じで良いか。まだほかにもいろいろテーマがあるのか。

○村木委員

いえ、先生はこの1本で。

○西田委員長

では演題はこのテーマで行かせてほしい。これについて何かあるか。

（ 「なし」という声あり ）

できるだけ多くの方に参加いただき、良いオンライン研修になるようお願いしたい。

○小寺書記

もし事前に先生に聞いてみたいことがあれば、取りまとめてお送りしたいと思うので、これも改めて期限を設けさせていただきたい。よろしく願いする。6月中くらいにいただければ、先生にお渡しできるかと思う。

○西田委員長

質問事項を6月中に。今まで活動してきた中で、何か、浜田市におけるいろいろな疑問点や、先生に参考になるご意見がいただけることがあれば、そういう質問を投げても良いかと思う。よろしく願いする。勉強会実施については以上でよろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

3 その他

○西田委員長

先般行われた地域井戸端会、全7チームで4か所ずつ行かれて、各地域の声を聞かれた。そこで出たいろいろな意見が、各委員会に振り分けられた。当委員会にも四つの自由意見が振り分けられている。

○小寺書記

四つある。一つ目は総務文教委員会と当委員会にいただいているものである。二つ目は議会広報広聴委員会と当委員会、三つ目は当委員会のみ、四つ目はこれも総務文教委員会と当委員会で振ってもらっている。今日見ていただいたものなので、また時間を別途設けてこれについて各委員からご意見をいただきたい。特別委員会として何かお返しできるものがあれば返すということで。意見としていただくという形で進めるのも良いと思うし、返答すべき形があれば返すという流れで良いかと思っている。

○西田委員長

全部返さないといけないか。複数振り分けられたそれぞれの常任委員会でも同じように。

○小寺書記

ただ、振り分けられたもの全部が全部回答できるものではないし、物にもよるかと思うので、その辺は協議の上で良いと思う。

○西田委員長

協議はどうでしょうか。

○小寺書記

勉強会が終わってからも良いというイメージはある。

○西田委員長

それまでに一応これに目を通してもらい、各委員の考えや返答案を考えていただいて、7月7日のオンライン研修終了後にあまり時間を取らずまとめさせていただくことのでいかがか。芦谷委員、7日は全員協議会室にはおられないか。

○芦谷委員

その日にされるなら事前に私の所見を書いて送る。

○西田委員長

そうしてもらえたら助かる。では7日に皆の考えをまとめたい。ほかに事務局からあるか。

○小寺書記

次の委員会日程について。

○西田委員長

委員からその他に何かあるか。

(「なし」という声あり)

ないようなら、次の委員会日程について。

○小寺書記

7月7日に勉強会をするが、これは委員会というよりはあくまで勉強会の形で、委員派遣を行って進めようと思っている。勉強会で出た内容について皆で協議する時間を、なるべく時間を空けずにやりたい。翌週くらいはどうか。皆の都合を伺いたい。

(以下、日程調整)

○西田委員長

7月13日木曜日の午後2時からということによろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのように。次回の開催は、7月7日は研修会で、それが終わって7月13日木曜日の午後2時からとしたい。

○小寺書記

議題としては研修会を終えての委員間協議ということで。土日月で所感などいただけたらうれしい。よろしく願います。

○西田委員長

それを基にまた皆で意見交換したい。

○柳楽委員

まとめるのは何か書式のようなものは。

○小寺書記

お送りする。

○西田委員長

以上で良いか。

(「はい」という声あり)

以上をもって協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[14 時 01 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西 田 清 久